

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200726		
法人名	富厚里福祉村株式会社		
事業所名	グループホームふるさとの家富厚里 1階		
所在地	静岡県葵区富厚里108-1		
自己評価作成日	令和4年 5 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和4年 7 月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 6 月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全ては難しいがなるべく本人の意向に沿った支援・生活が出来るようにし、ここで良かった、幸せと言ってもらえるよう努めています。
 アットホームな環境を作ることで利用者様、職員同士も毎日笑顔いっぱいのグループホームを目指し、私たち職員も楽しく仕事ができる環境づくりを行っています。
 管理者と職員の垣根をなくすことで何でも相談しやすい雰囲気を作り、ご家族や外部の方からも雰囲気が明るくなったとお褒めのお言葉も頂けているため、今後も明るく笑顔いっぱいのグループホームを目指して行きたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「利用者様の想いや願いを第一に尊重するケア」を掲げている。外部評価の前回ステップを重点課題として、この一年真摯に取り組んだ成果が顕著に表れたことで外部評価の有効性を実感している。不定期開催であった運営推進会議の定例化に伴い、関係者に会議資料と記述式アンケートを配布し、予想以上の意見や感謝の気持ちが寄せられている。外部評価で年1回事業所全体の自己評価を行い、事業所の人事考課として個人の自己評価を年2回行うことで総体的な把握に繋がっている。管理者は現状における課題について今後どうすべきか模索していたが、様々な意見や要望が後押しの一端となり前向きな姿勢が窺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回外部評価後、今一度理念を振り返り共有することで具体的に何をすべきか会議で検討をしている	ホーム会議等で職員に周知する形の共有が主となっている。今後は自分の言葉で「書く」「発言する」等の自発的な方法も取り入れ、さらなる理念や方針の浸透に努めていく考えである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣商店に食材の配達をお願いしている。運営推進会議で現状報告と協力をお願いしている	地元職員の子供の学校にリサイクル資源を持ち込み、できる範囲で地域貢献を行っている。会議資料の配布により、新町内会長に事業所の存在をアピールできた。途切れている回覧板の再回付をお願いするなど、関係再構築に努めていく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため積極的には行えていないが相談の問い合わせには対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの関係で書面での開催となり利用者は参加できていないが、頂いた意見をもとに検討しサービスの向上を図っている	会議は不定期開催であったが、現在は2か月毎に関係各所に資料等を配布している。事業所の状況や利用者の様子を伝え、アンケートを同封して意見等の把握に努めている。地域関係者や家族から様々な要望や感想が寄せられており、真摯に対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会の協力依頼や、権利擁護の利用、高齢介護課からの一時措置対応にも協力している	市や地域包括支援センターへの議事録提出は郵送で行っている。今後は年に1回程度直接出向き、会議開催時の参加依頼をしていく。市に介護相談員派遣を依頼しているが、担当課より回答がないため早急に確認を行い継続させていく。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の勉強会や、3か月に一回の委員会を行い、グレーゾーン等の確認や拘束を回避する方法の検討を行っている	勉強会や委員会に不参加の職員には、資料等を配布し各自押印はしているが、理解度を確認するまでには至っていない。特にスピーチロックの事例についてはホーム会議等でその都度話し合い、意識共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議での勉強会にて意識付けを行い、随時話し合う機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいて、制度を利用しようとしている方もいるためホーム会議で勉強会を行い、制度を理解する様にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身寄りのない認知症の方でも分かりやすく説明を行っている。ご家族には何でも聞きやすい関係を築ける様雰囲気づくりをしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でアンケートを送り要望に対応している	事業所アンケートの要望等への対応は、次回資料に記載している。外部評価の家族アンケートの回答からも、事業所に対する信頼、安心、取り組みへの理解、感謝の気持ちが寄せられている。意見箱を利用者と一緒に制作し、見える場所に設置していく。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員の垣根をなくすことで相談しやすい環境が出来ている。何かあればホーム会議等で話し合いを行っている	基礎知識等の習得に関して、外部研修への参加を希望する声がある。事業所全体の底上げを考慮した研修参加について検討している。各フロアの意識に僅かな差異があるため、管理者は事業所全体を統一させていく意向である。管理者と職員、また職員間の関係性は良好である。	フロア毎の情報共有はできているが、リスクが考えられる支援等に関して統一感に欠ける部分がある。理念や方針に基いた同等の意識が、事業所全体に浸透するように周知徹底が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価表を記入してもらって評価をしている。問題があり注意する事があってもフォローをし、やる気を損なわない伝え方をすることで向上心を持って働けるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内に初任者研修制度があるが外部の研修はコロナであることもありなかなか出来ていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月一回管理者会議があるがコロナでの中止が続いているが他事業所との連携は図れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けの仕方などに注意し本人の思いを傾聴することで安心して生活できる環境を整えている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安も汲み取り何かあっても聞きやすい、相談しやすい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全てを実現することは難しいかもしれないが、なるべく思いに寄り添えるよう、何が出来るのかを随時話し合い、ホーム会議でも相談をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームなグループホームを目指し、親近感のある関係性を築けるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のおたよりにて近況を報告し、面会ができなくても生活の様子が分かるようにしている(写真付きにすることで表情もつたえられるようにしている)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた場所やお寺などに行ったり、長年ヘアカットをしてきた親族にヘアカットに来て頂いたりしている	家族の面会は、玄関先で2メートル程度の対人距離を保ち15分程度の実施が可能である。面会は徐々に増えてきているが、家族との外出や自宅への外泊はまだ自粛している。利用者同士も馴染みの関係にあり、日々の状況変化を見逃さずに穏やかに過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブルの配置を考慮したり、1階2階の行き来が気兼ねなくできる環境を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談などがあれば電話対応もしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに担当を付けることで担当職員が本人の思いをくみ取り、ホーム会議で他職員に伝えることで検討、共有をしている	職員個々が意識を持って利用者に関われるように担当者制を敷いている。利用者の様子は職員全員で見守り、気付き等はホーム会議等で話し合いモニタリングに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人からの聞き取りをすることで把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う様子があつたりしたら介護記録に細かく残す事でその方の生活リズムに合わせた生活を支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングをすることで課題を明らかにし、カンファレンスやホーム会議で話し合いを行っている	モニタリングは3カ月毎に実施しており、介護計画は短期で半年、長期1年で見直している。ホーム会議の後にサービス担当者会議を開催して、内容を話し合っている。必要に応じて医師に意見を伺い、家族にも同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に残し、申し送りや連絡ノートに記入することで職員全員が共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望をくみ取り、ニーズに合わせた対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな風土を活かし暖かい日は散歩をしたり、近所の山田長政供養塔に行ったり、少し足を伸ばしてやまびこなども時折訪れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の主治医との連携を密に行い、場合によっては総合病院や専門医への受診も随時行っている	協力医が利用者全員のかかりつけ医(主治医)で、週2回訪問診療を受診している。法人系列訪問看護ステーションの看護師が週1回チェックに来訪し、歯科医の訪問チェックと衛生士のクリーニングも月に1回ずつ実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日の訪問看護があり、場合によっては看護師から主治医への連携も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍での入院は面会ができないが、電話対応やオムツ類などを持参する際には病院側との情報共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの判断は早目に行い、急変時の対応の確認と加算を取る場合はご家族に説明をし、了承頂いている	今年度は4名の看取り支援を行っている。管理者は前職の経験からスーパーバイザー的な役割を担っており、スムーズな支援に繋がっている。職員によって終末期に対する意識が様々で、人としてのモラルに関わる研修等の必要性を感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回は救急時の対応など勉強会を行い、何かあった時はその機会に勉強会を随時行うようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一回防災訓練を行い、夜間を想定した訓練も取り入れている	前回ステップであった担当者の選任、備蓄品リスト作成、訓練計画の作成はクリアしている。夜間想定訓練は毎年秋頃の訓練で実施するように定例化させ、今後は訓練内容の振り返りと改善に取り組んでいく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりにあった声掛けを心がけている	年2回、法人自己評価で接遇や個人情報に関して確認する機会がある。本人の希望により、家族同意の上で呼称を「おばあちゃん」としている例がある。管理者は、意識的に発する少し砕けた言葉がけ等を皆で笑い合えるような関係性と雰囲気作りに努めたいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を築く事で言いやすい環境を整えなるべく本人の希望に添える様、聞いてから行動するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	90歳以上の方が多いので本人のペースで生活出来るよう心掛け、食事をずらしたり本人の意思を尊重したケアに努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットは本人の希望に沿ってやって頂いている。入浴時はなるべく本人に服を選んで頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を拭いて頂いたり、本人のおこずかいを使ってパンやミカンなどを購入している	栄養士監修の献立を使用しており、利用者の要望も取り入れている。自由な雰囲気、職員が介助しながら一緒に食事を摂っている。自家栽培のプチトマトやスイカ等の実がつき始め、食べ頃にメニューに加えている。おやつ作りでどら焼きに挑戦した利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶以外でも水分摂取が出来るようカルピスや紅茶、コーヒーなど常備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本毎食後の口腔ケアを行っている。月2回の訪問歯科でクリーニングや検診をし、相談することで口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方でも便意あるときはトイレでの排泄を行っている	この1年で自立度に大きな変化はない。約半数の利用者が男性で、ざっくばらんに声掛けすることで誘導等がスムーズにできている。個々のパターンに合わせた見守りや介助を行い、失禁予防にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヤクルトを提供したり、本人の好む飲み物を提供することで水分を促すよう心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する日を固定せず体調に合わせて入浴をしている。入浴剤を利用することで気持ちよく入浴を楽しめる様にして	入浴拒否はほとんどなく、週2回の入浴を目指している。入浴が大好きで気持ちが良く、湯船から出たがらない人がいるが、ペースメーカーを入れているため入浴時間を10分程度として負担に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ぐっすり休まれている時は安眠を優先し、食事や排泄の声掛けを見送ることもある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は連絡ノートや申し送り情報共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外へ出かけたい方にはドライブに連れて行ったり、週一回の訪問バン屋でバンを買う事を楽しみにされている方もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本社へ用事があるときはドライブがてら同乗してもらったり、気分転換に外でお茶を飲んだり、下りないドライブなどコロナ禍でも出来る事を会議で検討し実行している	関係者に運営推進会議の資料を配布することで、コロナ禍の外出支援についての事業所の考えや計画内容などを周知することができた。周知内容についての意見や要望がアンケートの回答として寄せられている。「感染リスクの少ない活動や外出」について、継続して検討していく。	外出支援に拘り過ぎずに、外気浴と室内活動をセットで考えることで全体のバランスを取ることも可能である。外出が無理な場合に個々で過ごすのではなく、年間行事以外の室内イベント等に切り替えるなどの工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理している方もいるがそれ以外の方は自己管理が難しいので金庫での管理となっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会が出来ないので直接電話で会話してもらう事もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症が強い方が多いので掲示物で季節を感じてもらえるようにしたり、イベント時の写真を掲示したりしている	フロアの壁には、紫陽花やカエル、傘にトトロなどで梅雨をイメージした貼り絵が飾られている。明るい色遣いで、ジメジメ感を払拭するような意識が窺えた。効果的な換気となるように、定期的なカーテンの洗濯やエアコンフィルターの清掃を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテレビ以外でもテレビ鑑賞ができるようソファ席のテレビも設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に仏壇を置いたり、使い慣れたタンスを使用している方もいる	各部屋に額縁の表札があり、入口に暖簾をかけている人もいる。表彰状や感謝状を飾ったり、趣味の裁縫道具を置く人、コルクボードいっぱい家族や思い出の写真を貼っている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手だけでもできる洗濯ものたたみや食器拭き、テーブル拭きなど出来る事はなるべくお願いしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200726		
法人名	富厚里福祉村株式会社		
事業所名	グループホームふるさとの家富厚里 2階		
所在地	静岡県葵区富厚里108-1		
自己評価作成日	令和4年 5 月 23 日	評価結果市町村受理日	令和4年 7 月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 6 月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為外出を控え、ホーム内で行えるレクリエーションを提供し、利用者様にとって楽しい時間になるよう心掛けております。また、利用者様それぞれの希望を聞き、職員全員で話し合いなるべく実行できるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム会議で理念を共有し、本来のグループホームのあるべき姿を目指し実践につながる様にしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	資源回収への協力等行き交流に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか機会がなく難しいが運営推進会議で取り組みの報告をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者からの報告を受け、面会のない利用者の家族の思いを知ることが出来ている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	権利擁護を利用の方の様子やホームの事業について月に一回のおたよりにて報告している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会から問題となるケアについては職員同士注意し合い取り組みが出来ている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為につながりかねない行動に対し、その都度職員同士話し合いをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議で勉強会を行い、制度をしっかり理解できた上での利用となる様努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族等からの質問を受けた際には管理者から回答させて頂く事を伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には職員から声掛けさせて頂き、意見、要望、話の内容等は管理者に報告している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や伝達ノートを介し、会社の意向について報告を受け、疑問点、提案については本社の回答の報告を受けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接上申、評価を受ける場があるとより励みにつながると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の機会を増やしてほしい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の交流を増やしケアの向上に努めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	様子観察、傾聴をし他の利用者様と馴染んで頂ける様橋渡しに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者からの事前情報を受けおたより等で報告することで不安や要望に向き合っていることの理解をしていただく様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	紙面での情報にとらわれず利用者の様子から今必要とする支援の見極めに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今までの職歴や暮らしぶりから専門的知識や暮らしの知恵を学んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係がうまくいっていない方もおり家族の意向を配慮しながらの橋渡しに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染に注意を払いドライブなど利用し支援できるように努めていきたい		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で不満を抱えている状態であることも。何に對し不満を感じているかを理解し、関係悪化とならないよう支援することに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の家族にも年賀状なども考えていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動には理由があることを理解し本人の思いが何であるか把握できるよう努めていきたい		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイル活用が定着してきている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化に注意を払い、現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、問題点改善点を話し合い、現状に合った介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りから良いケアの方法を実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの方法については常に情報、意見交換を行いその時の最善の方法での支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設の利用や観光マップを利用したのドライブを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医の指示を受け適切な医療を受けることができるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回訪問看護を受けており処置やアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院対応については主に管理者が行っており、補助を努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合は家族への報告を密に行っている。終末期に関しては管理者主体で家族と話し合い指示にしたがって支援を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて定期的に学んでいる。事故発生時においては職員同士声を掛け合い行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に二回行っているが夜間の災害時には不安を感じる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や行動に対し否定するような声掛けをしないようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声掛けをすることを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事の時間は出来る限り利用者のペースを大事にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や朝の更衣では一緒に準備している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が準備や片付けを手伝う事を嫌がる利用者や手伝いたい利用者がおり相手を気づかいしながらの支援を行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の少ない方は注意し連携医の指示を受けることあり		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い特に夕食後においては状態に応じて支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人その人の排泄パターンを理解し、失禁しないよう声掛けを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便のコントロールは薬に頼っているところもあるが、乳製品の提供や散歩など取り入れていきたい		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や気分に合わせて入浴して頂く事を心がけている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう居室内の環境は生活習慣に合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば変更理由を理解し症状の変化について職員同士が把握できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	脳トレや体操など好きな事で楽しんで頂き、時には違う事への挑戦の声掛けを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということもありなかなか個々の希望にこたえることが出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがあれば一緒に買い物に出かけることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば電話の引継ぎも行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペース、居室内の清掃、台所の衛生管理などトイレは気持ちよく使用できるように汚れに注意している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる暖かなところにソファを置き自由に使っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな洋服を壁に掛けたり芸能人の写真を部屋いっぱい貼っている方もいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はお手伝い頂きこれは自分の仕事と決め毎日行って下さる方もいる		